

ジェンダーの視点からみた郊外地域における女性退職者の地域参加と郊外社会の構造

—太閤山ニュータウンを事例に—

12210100 谷口琴美

1

I はじめに / 先行研究

〈仙田1993〉

郊外に居住する高齢者の社会関係に注目し、個人属性ごとの生活空間の違いを分析



- 個人属性による分類で、性別による差が最も顕著
- 男性は高齢期においても職縁関係を重視し、居住地域とのかかわりが希薄
- 女性は日常生活と地域が密接に結びついているため、地域で友人関係を築いている

3

I はじめに

〈岡本1995〉

- 都市郊外では、労働に従事する男性と家事に従事する女性という明確な性別による分業が存在する

● 問題意識

- 郊外地域では、家庭を担う主婦が中心となって居住空間と密接に関わり、地域ネットワークを拡大
- 一方で多くの男性は寝食や休日以外では居住地に不在であり、退職後に社会関係が希薄になる



男性と同じように就業している女性は郊外にも存在するが、そのような女性の社会関係はどうであるのか

2

I はじめに / 先行研究

〈影山1998〉

女性(主婦)に注目したジェンダーの視点からの分析

- 居住空間の形成に関わる地域活動に着目し、その展開事例をジェンダーの視点から分析
- 女性が地域コミュニティへ参加する過程を明らかにしている



- 女性を中心とした地域ネットワークが居住空間への問題意識を高めた
- コミュニティ形成に関わるようになり、主婦としての制約を受けながらも、地域活動を通じて自己実現を達成している

4

I はじめに / 先行研究

〈 木村2006 〉

- 退職した男性のみに注目した地域活動参加の過程の分析
- 男性退職者の地域における社会関係再構築の可能性と課題を検討



自力による参加

- 仲介者なし
- 自身の趣味や興味から参加

他力による参加

- 仲介者あり(隣人・妻)
- 自身の趣味や興味から参加

- 男性と同じように働いていた女性の社会関係の構造は明らかにされてこなかった

5

II 研究目的

〈 研究目的 〉

- 女性就業者に焦点を当て、男性を比較対象とし郊外に居住する男性と女性のコミュニティ活動への参加状況や過程を分析し、居住地における社会関係構築の男女間の差を明らかにする
- 就業女性の受ける性別役割分業の影響を検討し、郊外地域の構造的特徴を再考する

〈 対象地域 〉

- 富山県射水市、太閤山ニュータウン 中太閤山地区

7

I はじめに / 先行研究まとめ

- 郊外地域において就業していた女性について、どのように性別による役割の影響を受け、その中で地域と関わってきたかについては十分に研究されていない

- 現代において女性の就業率は上昇しており、郊外も例外ではない

しかし、



郊外

= 女性が主婦であることが前提の構造

就業している女性は、郊外地域では明示的に位置づけられてこなかった存在であると言える

6

III 研究方法

アンケート調査 (対象: 郊外に住む男性、女性)

- 個人属性(年齢、現在の在職状況、退職時の年齢等)
- 最も熱心に取り組んでいる活動について(参加状況、取り組み内容、活動場所、参加のきっかけ等)

聞き取り調査 (対象: 郊外に住む男性・女性退職者)

- 在職中から退職後までのライフストーリー
- 特に在職中の地域との関わりや交友関係などに注目

8

Ⅳ 調査結果 / アンケート(男性)

年齢	回答者			現役在職者			定年退職経験者			完全退職者		
	総計	参加者	参加率(%)	計	参加者	参加率(%)	計	参加者	参加率(%)	計	参加者	参加率(%)
30-39	4	0	0.0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
40-49	10	2	20.0	10	2	20.0	0	0	0	0	0	0
50-59	24	3	12.5	24	3	12.5	0	0	0	0	0	0
60-69	22	2	9.1	9	1	11.1	13	1	7.7	4	0	0
70-79	41	18	43.9	2	0	0	39	18	46.2	21	10	47.6
80-89	22	6	27.3	0	0	0	22	6	27.3	15	5	33.3
90-99	1	0	0.0	0	0	0	1	0	0.0	1	0	0
計	124	31	25.0	49	6	12.2	75	25	33.3	41	15	36.6

表1 男性のコミュニティ活動への参加状況 (アンケートより作成)

- 男性回答者124名のうち、現役在職者が49名、定年退職経験者が75名
- 定年退職経験者の参加者数(25名)が現役在職者の参加者数(6名)を大きく上回り、参加率も大きく上回っている
- 定年退職経験者と完全退職者の参加率に大きな差はない

9

Ⅳ 調査結果 / アンケート(女性)

年齢	回答者			在職者			退職者			専業主婦		
	計	参加者	参加率(%)	計	参加者	参加率(%)	計	参加者	参加率(%)	計	参加者	参加率(%)
30-39	6	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0
40-49	17	2	11.8	16	2	12.5	1	0	0	0	0	0
50-59	17	3	17.6	13	3	23.1	4	0	0	0	0	0
60-69	31	6	19.4	21	3	14.3	9	2	22.2	1	1	100.0
70-79	45	18	40.0	7	5	71.4	27	9	33.3	11	4	36.4
80-89	13	4	30.8	0	0	0.0	10	3	30.0	3	1	33.3
90-99	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0
計	129	33	25.6	63	13	20.6	51	14	27.5	15	6	40.0

表2 女性のコミュニティ活動への参加状況 (アンケートより作成)

- 女性回答者129名のうち、在職者が13名、退職者が75名、専業主婦が6名
- 女性も、在職者の参加者(13名)より、退職者の参加者数の方が多い(14名)
- 女性も退職者の方が活動が活発なのは男性と変わらないが、その差は男性に比べて小さい
- 女性において、男性よりは退職が活動参加のきっかけになっていない

11

Ⅳ 調査結果 / アンケートまとめ

〈男性〉

- 太閤山地域では、男性は定年退職をきっかけに活動を行っている

▶ 現役時代は忙しく、あまり地域とは関われないが、定年退職した後は自分の時間ができ、地域に目を向けるようになる

- 定年退職経験者と完全退職者の参加率に大きな差はない

▶ 定年退職後も再雇用やシルバー人材センターで働き続ける人が多くみられた

▶ 現役の頃よりも時間ができ、在職していても活動を始める傾向がある

10

Ⅳ 調査結果 / アンケート(女性)

	在職者		退職者	
	計	参加者(参加率)	計	参加者(参加率)
正規雇用	23	2 (8.7)	16	7 (43.8)
非正規等	37	8 (21.6)	34	7 (20.6)
その他	3	3 (100.0)	1	0 (0.0)
計	63	13 (20.6)	51	14 (27.5)

表3 雇用形態別の女性就労者の活動参加状況

(アンケートより作成)

正規雇用・・・退職者における参加者が在職者より大きく上回っている

非正規雇用等・・・在職者と退職者で参加者数に大きな差は見られない

- 正規雇用者においては、仕事を退職して時間ができたことが活動に参加する一つの契機になっている
- 一方非正規雇用等では、退職は活動参加の契機になっていない

▶ 非正規等の女性は、正規雇用の女性よりは自分の時間があるもともと地域に馴染んでいて、改めて地域活動に参加する必要がない可能性

12

Ⅳ 調査結果 / アンケート(女性)

- 女性の正規雇用者は、男性と同じように退職後に活動が活発になる、退職が活動参加のきっかけになっている

- ▶ 在職中は仕事や家のことで忙しく参加しづらいが、仕事を退職して時間ができたことが要因と考えられる
- ▶ 契機は同じだが、地域活動を始め始める際の過程に男性との違いはあるのか

- 男性女性を比べると在職者と退職者の参加率の差がより大きいのは男性

- ▶ 女性は男性よりも退職が活動参加のきっかけになっていない可能性
- ▶ 非正規はもともと地域のネットワークがあるので改めて活動に参加するほどではない

13

Ⅴ 調査結果 / 聞き取り調査(女性)



Fさん(66歳) 〈現役時代：IT系の会社員〉

- 結婚後もフルタイムで就労
- 仕事は忙しかったが、子育てに夫はあまり関与しなかったため、家事、育児、仕事が大変
- 運動会など地域の子ども絡みのイベントには、重荷だったが一生懸命参加し、子どもの同級生の母とは今でも仲が良い
- 夫の仕事が忙しかったため、町内会も自分が出ていた
- 夫の母の介護のため53歳で退職。義母が亡くなってからは急に時間に余裕ができ、周りからいろんな役を頼まれるようになり務めた

15

Ⅴ 調査結果 / 聞き取り調査(男性)

自力による参加

- 自身の趣味
- 地域への愛着

他力による参加

- 近所の知り合い
- 親

- 在職中は仕事が忙しく、地域とはあまり関わらない



55歳~65歳

・・・退職が近い年齢から退職後にかけて地域と関わりを持ち始める

- 地域と関わりを持つきっかけ

「自力による参加」・・・昔の趣味を再開

「他力による参加」・・・町内会に参加、地域の知り合い

14

Ⅴ 調査結果 / 聞き取り調査(女性)



Lさん(85歳) 〈現役時代：保険会社〉

- 32歳の時に夫を亡くし、それから保険会社に正社員で勤め、定年まで働いた
- 仕事も育児も大変だったが、夫が亡くなったので町内会の役員等も自分がやっていた
- 町内には町内会に付属して婦人部という女性のコミュニティがあり、そこでできた友人とは今も交流がある
- 退職後は自分の趣味を再開したほか、地域では町内の習字の先生をしている友人のもとで習字をしたりしている

16

V 調査結果 / 聞き取り調査まとめ

● 退職後に地域活動が活発になるのは同じ

〈男性〉 退職まで地域の人とはあまり関わらない

→ 仕事が落ち着く、退職が近い年齢や退職後

- ◆ 町内の役職に就くことや自分の趣味を再開することで、地域に関わる足がかりを得ている

〈女性〉 退職前も町内や地域との関わりをある程度持っている

子育て、忙しい夫の代わりに町内会役員、女性特有の婦人部

→ 退職前でも地域と関わらざるを得ない要因が多い

- ◆ 退職後は町内の人からの誘いで地域活動に参加するきっかけになっている

17

VI ジェンダー役割の影響と郊外地域の構造

聞き取り調査から…

「男性の地域参加」 → 退職後の余暇や自己実現を目指すものとしての活動など、**選択的**な側面が強い

「女性の地域参加」 → 子育てなど家庭と地域が密接に結びついており、生活の中で地域への関与が**必然的**

- 影山(2003) … 郊外は性別役割分業が固定化されている



- ◆ この構造により、仕事で忙しくとも、女性としての役割を果たすため、地域と関わらざるを得ない生活になっていると考えられる

19

V 調査結果 / 聞き取り調査まとめ

子育ての影響

- 子育ては女性の領分であるという時代背景
 - ◆ 子どもへの愛情や地域への目もあり、子どもに関するイベントに参加し、子どもを通じて地域に知り合いが増えるのでは
- #### 女性特有のコミュニティである婦人部
- 当時、郊外での自治は主婦の活動が活発であった
 - フルタイムで働いている女性は、当時は少数
 - ◆ 仕事で忙しくても男性のように地域コミュニティにあまり関わらずに生活する女性は少なかったのでは
- 女性の活動参加は、新たに社会関係を築くものではなく、すでに築かれた地域での社会関係の延長

18

VI ジェンダー役割の影響と郊外地域の構造

〈郊外社会〉

✕ 主婦が女性としての役割を担うことで成り立つ

↳ 女性という性自体がその役割を担うことで成り立つ

つまり … 郊外における地域の担い手として想定されてきたのは、主婦のみではなく、男性のような就業経験をもつ女性も含まれたもの

→ 郊外社会は、就業している女性も居住空間の維持管理のため女性としての役割を果たすことを期待される

→ 就業の有無に関わらず性別役割分業を固定化する構造

20

参考文献

- 植村元覚・二神弘 1980. 『北陸の都市と農村』古今書院.
- 岡本耕平 1995. 大都市圏郊外住民の日常活動とデイリー・リズムー埼玉県川越市および日進市の事例. 地理学評論 68A: 1-26.
- 影山穂波 1998. ジェンダーの視点から見た港北ニュータウンにおける居住空間の形成. 地理学評論 77A: 639-660.
- 影山穂波 2003. 『都市空間とジェンダー』古今書院.
- 木村オリエ 2006. 郊外地域における男性退職者のコミュニティ活動への参加プロセスー多摩市桜ヶ丘団地の事例. 地理学評論 79: 111-123.
- 倉沢 進 1998. 『コミュニティ論ー地域社会と住民行動』放送大学出版.
- 仙田裕子 1993. 高齢者の生活空間ー社会関係からの視点. 地理学評論 66A: 383-400.
- 富山新港史編さん委員会 1983. 『富山新港史』新湊市.
- 蓮見音彦編 1991. 『地域社会学ーライブラリ社会学(3)』サイエンス社